

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
安心・安全な学校づくり	(全校レベル) II) 事故防止、感染症予防対策の徹底 <下位組織レベル> ①児童生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるように感染予防の継続を図る。 ②教員対象の研修を計画し、傷病者発生時の緊急対応について、意識やスキルを高める。	評価指標 ①感染症予防対策（健康観察、手洗い等手指衛生、換気、給食の衛生管理、保健指導）が徹底されたという教員の評価が80%以上となる。	評価指標の達成度 ①感染症予防対策が徹底されたという教員の評価が80%以上となり、目標を達成することができた。	別紙 (評定) A (所見) ①教室換気や手洗いの励行、給食時の消毒の徹底など、感染症対策予防については、職員朝会等を通じて職員に周知したりチェック表を活用することで、教員が感染症対策について高い意識を持ち取り組むことができた。 ②緊急対応訓練については、各訓練において100%の参加率であった。訓練の形式も、時間と場所を指定して行う研修ばかりではなく、教員が自分のタイミングで研修できるようにiPadを活用するなど、研修形態も工夫することにより、研修への参加をしやすいと考える。	①集団で生活している児童生徒が安心・安全に学校生活を送れるために、換気やうがい・手洗いの励行などの基本的な感染症予防対策を次年度も継続して取り組んでいきたい。 ②緊急時にも教員同士が連携した対応ができるように、緊急対応時の訓練については、来年度も研修形態を工夫したり、教員が参加しやすい研修の環境を作るなどとして取り組んでいきたい。
		②5種類の緊急対応研修において希望者を広く募り、必須参加者の参加率が90%となる。	②窒息・誤嚥対応、食物アレルギー対応、緊急対応、スクールバス緊急対応、初任者の救命講習の5つの研修において、必須参加者の割合が各研修において100%の参加率であったため、目標を達成することができた。		
		活動計画 ①-1 登校後の健康観察表を各クラスに配布し、表に基づいて担任が児童生徒の検温・観察を行う。異常の早期発見に努め、迅速に対応する。	活動計画の実施状況 ①-1 健康観察票を活用し、担任が児童生徒の体温・健康観察を行い、異常の発見や体調不良に対する対応を行うことができた。		
		①-2 給食当番チェック表、健康観察表（教員用）を作成し、給食当番の健康状態等を確認する。給食においては、密を避けるための環境設定を行う。	①-2 教員用の給食当番チェック表を作成し、健康状態のセルフチェック、給食準備においては消毒の徹底や密を避ける等の環境設定を行い、給食当番を実施することができた。		
		①-3 感染症予防対策チェック表を作成し、それぞれの項目（a毎日の健康観察、b手洗い等手指衛生、c換気、d保健室との連携、g児童生徒への指導）について、夏休み前と後期末にJoruri回答システムでクラス毎に確認し、振り返りをする。	①-3 クラス毎に感染予防対策ができていたかのチェックを行った。どの学部・クラスでもそれぞれの項目において感染予防対策をとることができていた。		
		①-4 月1回の課会において、校内ガイドラインや感染予防対策の不備や改善点を話し合い、健康管理や環境衛生を良好に保つ取り組みを進める。決まったことや現状を職員会議等で周知・提案し、感染予防対策の徹底を図る。	①-4 教室の換気や、手洗い・うがいの励行など、健康管理や環境衛生について職員朝会や職員会で呼びかけ、感染予防対策の徹底を図ることができた。		
		②-1 研修は年間の教育活動と関連付けて計画的に実施する。対象者は全体に呼びかける。実態に即した資料動画を作成し、活用する。	②-1 アレルギー対応や発作対応など児童生徒の実態や教育活動に合わせた研修を行うことができた。発作対応では動画を活用し、研修に活かすことができた。		
		②-2 参加時に名簿チェックを実施し、研修後に集計する。	②-2 研修参加時に名簿で参加者のチェックを行い、研修後に集計することができた。		
②-3 研修後はアンケートを実施して研修内容の振り返りを行う。	②-3 研修後アンケートを実施し、参加者の研修振り返りを促すことができた。				

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった